

濱田雅子著『写真が語る近代アメリカの民衆の装い—Guidebook of Joan Severa, Dressed for the Photographer, Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900 —』出版の経緯と本書の特徴

1. 本書出版のきっかけ

Joan Severa, Dressed for the Photographer: Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900, The Kent State University Press, 1995. p.592.

この大部な著作は、ウィスコンシン州立歴史協会の学芸員を 30 年にわたって歴任されたジョーン・セヴラ (Joan Severa, 1925.8.7-2015.3.5) 女史が 30 年と言う歳月をかけて取り組まれた大作です。濱田のこの著作は、読者の皆様がジョーン・セヴラ女史の 592 ページの大作をご活用いただくためのいわばガイドブックとしてまとめたものです。ジョーン・セヴラ女史の写真分析に基づいて、筆者の独自の立場から、写真が語る近代アメリカの民衆の装いを分かり易く解説させていただきました。筆者はアメリカの庶民服を 38 年間に渡って研究してきました。本書は筆者の新しい研究書の普及版であり、翻案権を遵守して書かれた著作であります。4 冊目の POD 出版です。内容紹介に当たって、最初に、本書出版の二つのきっかけについて述べましょう。

1988 年 5 月のある日、ジョーン・セヴラ女史から一通のお手紙が届いたのです。透かし模様の入った A4 サイズの便箋 2 ページに、びっしりと英文が打ち込まれています。このお手紙は、筆者がウィスコンシン州立歴史協会に、19 世紀アメリカの衣服製作用の型紙を注文するに際して、お書きしたお手紙に対するお返事でした。筆者の英文の論文が掲載された『国際服飾学会』誌もお送りしました。私はこのお手紙を、35 年を経た今も宝物のように大切に保管しています。

ジョーン・セヴラ女史のお手紙では、アメリカの庶民服研究の必要性和意義について、次のように書かれています。

我々が携わっている研究は、魅力的な研究です。そして、貴女のようにアメリカから遠く離れた国から、大局的に把えて研究するには、大変な困難が立ちはだかっているに違いありません。私は、30 年間、博物館の学芸員を務めてきましたが、この濃縮された研究を通じて、庶民服 (common clothing) について、未だに多くのことを学んでいます。アメリカの民衆 (ordinary Americans) の衣服について書かれている書物は一冊もありません。アメリカ合衆国における生活史運動 (Living History Movement) の成長は、ガイドたちが農民や主婦等などとして、装おうと努めている多くのサイト (観

光地)が存在していることを意味しています。そして、彼らはそれを適切な方法で行うための資料をほんのわずかしか手にしていないのです。私は本書で、そのギャップを埋めたいと思っています。本書は貴女のような服飾研究者にも役立つでありましょうし、また、写真の保管をしている人たち(アーキヴィスト)にとって、コレクションの時代考証に役立つことでしょう。

このお手紙をいただいてから、7年後に、ジョーン・セヴラ女史の著作が出版(1995年10月27日出版)されたことを、アメリカ服飾学会(Costume Society of America)のニューズ・レターで知りました。7年後とは、1995年、筆者の住んでいる神戸が、かの恐るべき阪神・淡路大震災に見舞われた年でありました。筆者が住んでいたマンションは半壊、筆者の両親が住んでいたマンションは全壊してしまいました。筆者の兄弟は兄も弟も病死していて、筆者と私の家族が、両親の住まい(病院と経費老人ホームケアハウス)を手配し、その後、亡くなるまでお世話をすることになります。筆者の父、小川政恭(『西洋医学史』の著者小川政修の次男)はギリシャ文学の研究者で、ホメーロスのイーリアスの翻訳の仕事をライフワークに勤しんできました。すっかり完成した24歌の抜き刷りが全壊したマンションのリビングのテーブルに積まれていました。震災から28年余りが経過した現在、この抜き刷りは出版されないまま、筆者の書棚に並んでいます。父はイーリアスが叙事詩であるのか、抒情詩であるのか、ずっと悩み続け、解説を書きあげることができないまま、震災に遭遇し、院内感染で、1995年9月に他界しました。筆者は、1995年の震災後の秋に、アマゾンでジョーン・セヴラ女史の著作を購入しようとしたのですが、当時は、本書はネットでは注文できず、結局、国際電話で注文して、日本に送ってもらいました。B5版のハードカバーのずっしり重い書籍です。

以上のジョーン・セヴラ女史のお手紙と父が遺したライフワークをきっかけに、ジョーン・セヴラ女史の大著の翻訳出版をライフワークにして生きる決意を固めました。父は口数少ない方でしたが、父の「雅子、研究を辞めてはいけないよ」という重い一言が、筆者の研究生活の大きな支えとなってきました。それからというもの、岩波の英語の辞書を片手に、大学のハードな仕事の合間、合間に大学ノートに一行置きに翻訳をノートして、推敲を重ねてきました。当時、勤務していた武庫川女子大学の濱田ゼミの学生の皆さんが、翻訳した文章に、ノートが真っ赤になるほど赤ペンを入れ、その後、何度も推敲を重ねました。完成後、翻訳のプロの方に見直していただきました。大学退職後は、アメリカ服飾社会史研究会を設立し、8回に渡って、本書を章毎にパワーポイントにまとめて、研究発表をいたしました。そして、第一部の解説を書き上げた次第です。2012年に脳内出血で倒れたのですが、入院中にパソコンと本と原稿を病院に持ち込むのを許可していただいて、翻訳の推敲に取り組みました。

最終的に、翻訳書ではなく、筆者の新しい研究書の普及版として、翻案権を遵守して書

かれた著作として、POD 出版したのには、諸事情があります。翻訳権を取得している出版社の代表が病氣療養のため、本翻訳書の出版が保留となっており、2022 年の秋に亡くなりました。私も高齢であるため、世界に一冊しかない、ジョーン・セヴラ女史の 19 世紀アメリカの庶民服研究書のガイドブックとして、本書を著した次第です。翻案権を駆使いたしましたのは、公益社団法人著作権情報センターの助言によります。なお、翻訳出版につきましては、当該出版社の次期代表取締役の方が引き継ぎ中です。翻訳出版の方向で検討中です。

2. 本書の構成

【第Ⅰ部】 第Ⅰ部の解説では、最初に、ジョーン・セヴラ女史が収集した 277 枚の写真の種類の推移に関して、筆者がまとめた一覧表を掲載しました。引き続き、1840 年から 1900 年の歴史的背景を 10 年間隔で概説したうえで、写真技術の発展の様相を概観し、ジョーン・セヴラ女史の写真分析を筆者が解析して得られた知見を各章毎に述べました。全体構成は目次に見るとおりです。この解説をお読みいただくことによって、セヴラ女史の辞書のような著作の全体像を比較的、短時間でご理解いただけるように努めました。この解説は、英文で書いたものが下記の紀要に掲載されています。(一財)京都大学名誉教授森下正明研究財団紀要第 7 巻 2022 年 3 月刊 〈Commentary〉Joan Severa, Dressed for the Photographer: Ordinary Americans and Fashion, 1840-1900, The Kent State University Press, 1995 Hamada Masako (former professor of Mukogawa Women's University) <http://www.morisita.or.jp>

【第Ⅱ部から第Ⅶ部】 さらに本文の第Ⅱ部から第Ⅶ部における考察から、1840 年から 1900 年に渡る時期の 庶民女性の服装、庶民男性の服装、および子ども服の変遷過程が写真分析を通じて、リアルにご理解いただけるものと確信します。分析の視点はフレンチ・モードとアメリカン・モードの比較に置かれています。写真との比較対照の資料には Godey's Lady's Book のアーカイブ (Accessible Archives) を活用させていただきました。

3. 読者の対象

濱田のこのガイドブックが、何よりもアメリカ各地の歴史的な観光地を訪れる方々のために、お役に立てば幸いです。また、19 世紀アメリカの庶民服に関する研究書がセヴラ女史の本書以外には、存在していない現状において、服飾研究者やデザイナー、また、映画や写真関係者、社会史家やファッション、衣装、物質文化に興味のある人や学生の皆様が、ジョーン・セヴラ女史の 592 ページの大著をご理解いただくのに役立てば、この上ない喜びです。

4. アピールポイント、こだわった点

濱田は、「アメリカの庶民服」研究者として、このたび、新しい研究書の普及版の出版を実現できたのは、ひとえにセヴラ女史のこの素晴らしい著作が生み出されていたお陰と感謝の気持ちで一杯です。セヴラ女史は、全米の美術館や博物館ほかの諸機関を訪ねて、19世紀に撮られた写真を収集されたとのこと。これらの写真の著作権は消滅しているとはいえ、貴重な写真の数々を濱田の研究書に掲載させていただけたことに、深謝して余りあります。ジョーン・セヴラ女史の写真解説は、実に詳細に渡っており、19世紀の衣服の実物に精通している彼女ならではのすぐれた解説です。あとかきのクローディア・キドウェル女史の序文をお読みいただきたく存じます。クローディア・キドウェル女史は、スミソニアン協会の庶民服研究の第一人者で、ジョーン・セヴラ女史に、写真に見る庶民服に関する著作の執筆を薦められた方です。筆者はアメリカ歴史博物館を訪れ、クローディア・キドウェル女史にお会いしています。博士論文の研究に際して、たいへんお世話になった、もっとも敬愛する研究者です。

以下に、読者の皆様にご理解いただきたい、こだわった点を書きます。

ジョーン・セヴラ女史の著作に掲載された写真には、写真ナンバーが記されていません。そこで、筆者はナンバーをうち、掲載ページを明記したことをお断りしておきます。また、各章毎に、ジョーン・セヴラ女史の著作から、平均 25 枚の写真（合計 146 枚）と写真解説（全文、あるいは一部）を掲載させていただきました。セヴラ女史の著作からの引用箇所は、必ずカギ括弧で括るか、2 字下げして、掲載ページを明記しました。また、要約・紹介箇所には、該当ページを明記しました。濱田の見解は、筆者の見解として、明記させていただきました。ジョーン・セヴラ女史は、それぞれの写真に見られる服装について、詳細にわたる静的な分析を行っています。それに対して、筆者は、彼女の著作に掲載された写真に写った被写体がまとった衣服のシルエット、および部位別特徴の 10 年間における動的な分析を行い、筆者の見解を述べました。

このような方法に、筆者のオリジナリティを発揮させていただきました。写真解説に当たっては、セヴラ女史の解説に基づいて、①写真の種類、撮影年代、所蔵先、アクセス・ナンバー、②被写体の出自、および背景情報、③写真の場面、④被写体の服装の特徴、⑤服飾研究、歴史研究にまつわる、特に重要で、価値高い情報（全文）、必要に応じた情報（抜粋）、⑥筆者の見解について、順不同で翻案権を遵守して、著者の意図を損なうことのないように、また、写真の資料価値を読者の皆様に、十分、お伝えできるように、努めさせていただきました。ただし、本書に背景情報の記載がない場合、調べるすべがなく、本書に記載することはできなかったことをお断りしておきます。また、著者のジョーン・セヴラ女史の生前に、幾度もメールを交換し、ご本人よりメールで引用の許可をいただいていることをお断りしておきます。

5. 編集上のこだわり

- 1.本のサイズを B5 版にして、余白の取り方にこだわりました。
2. 特に、写真と図を上段に配置し、本文と引用の空白の取り方に配慮しました。レイアウトが難しく、とても苦勞いたしました。写真掲載ページを本文に括弧つきで入れるように最大限つとめましたので、読者の皆さんにとって、どの写真の解説なのか、とても分かりやすいかと思います。
3. 写真は、今から 120 年から 180 年前に撮影されたものですが、とてもきれいに印刷されたことを嬉しく思っています。ジョーン・セヴラ女史の著作には、大きなサイズで、解説付きで、ページいっぱいに掲載されています。筆者は、これらの写真をミノルタの一眼レフのカメラで、接写レンズを用いて、接写台を使って、コダックの解像度 400 のポジフィルムで撮影しました。その結果、原板管理の良さが功を奏して、本書の写真がとても鮮明で美しくなったのではないのでしょうか。また、印刷の技術もすぐれているのは、申すまでもありません。
- 4.編集、装丁、表紙デザインは、自力で取り組みました。Adobe の Photoshop と Illustrator のアプリを勉強しておいて、本当によかったと思います。

私は、2012 年 1 月に脳内出血で、左半身麻痺、猛烈なりハビリの結果、教壇に立てるまで回復しました。その後、転んで左手首の複雑骨折、左親指の腱の切断・手術と、災難続きでした。そのため、ずっとパソコンは右手だけで打っています。80 歳になりましたが、コロナ禍が続く中、本の出版という目標をもって、生き生きと生活できることを感謝しています。
5. 電子書籍のデジタル化も EPUB 変換でうまくゆきました。
6. モノクロ写真とカラー写真の棲み分けに苦勞しました。最初、全頁がカラー扱いになり、ずいぶん高価な本になるところでしたが、ネクパブ・オーサーズ・プレス of プレスの指示に忠実に取り組み、最終的に納得できる結果に到達しました。
7. Word から PDF ファイルに変換するとレイアウトが崩れて泣きそうになりましたが、長期保管用 PDF(A)で保存すると崩れなくなり、いい結果に繋がりました。
8. 用語解説と事項索引（Word で作成）をつけました。